

H30年9月4日 中堅研修 各グループワーク内容

【1G】

1. 診療報酬改定について

1) 病棟

① 看護必要度を正確に入力しとることが大切

- ・正しくチェックできるように、E・ラーニング、研修会、勉強会で学びを深める。
- ・急性期：入院2～3日でせん妄が起こることが多いため、危険行動をチェックすることが多い。
認知症のあるないの評価も必要
内科などの入院は長谷川式などでスクリーニングし、リハビリも入れる。
回復期リハビリ病棟は入院時にリハビリ機関等をリハビリと連携し早期に設定し退院調整をかける。

2. 看護連盟会員として

- ・選挙活動に参加、議員の議員の活動内容をもっと広めていく。

【2G】

1. 診療報酬について

- ・看護必要度のチェックを行い(研修を受けたもの)確認をしている。
- ・加算対象については、カンファレンスや記録を適切に残している。
- ・施設ではショートステイの利用者を増やしている。
- ・回復期リハビリテーション病棟では在宅復帰率を上げている。

2. 看護連盟会員として

- ・選挙を行くとともに、家族や知人に協力を仰ぐ。
- ・政治的に興味を持てるよう病院に伝達する。
- ・問題意識を持つ。

【3G】

1. 診療報酬について

- ・診療報酬について学んだ看護師が他スタッフに伝えていく。
- ・確実に看護必要度をつけるため、スタッフ同士でWチェックするなど現状を見極めて工夫していく。
- ・各スタッフが看護必要度の研修に参加する。

【4G】

1. 現状について

- ・看護必要度のチェック、記録は徹底している。
- ・各病棟記録監視委員2名がいて、1ヶ月に1回監査している。
- ・看護必要度の研修会を年に1～2回実施している。
- ・看護必要度に力を入れている。毎日リーダーがチェック、毎月師長・係長がチェックしている。
- ・個人カルテからしか入力できず手間がかかる。
- ・研修(院内・院外)が多い。(認知症・感染・医療安全など)
- ・手指消毒液の使用量のチェックをしている(個人・設置のもの)
- ・施設からの受け入れは断らない。日中の入院はよいが夜間の入院は負担が大きい。
- ・回復期病院;入院から退院、書類が多く勉強会を開きスタッフ教育をしている。
- ・休日に眼科の手術をしている。看護師の負担がある。
- ・訪問看護については加算や経費の内訳を知らないと在宅患者への説明がでず勉強している。

【5G】

1. 石田昌宏参議の上位当選を目指す。

- ・上位当選することでポストが貰いやすく、意見が通りやすくなる」。
 - ・各施設の連絡員、支部の役員が積極的に活動し投票を勧める。
- #### 2. 現場の声をどんどん届けることが必要。
- ・呼吸苦の患者に対しても麻薬管理についての加算があるとよい。
 - ・カテ後の管理ほぼは変わらないが、PCIでは加算が付くがCAGでは付かない。
- #### 3. 法律に絡むことなので政治に興味を持つ。研修会などに参加する。

【6G】

1. 診療報酬改定に対し、看護師の意見が反映されるよう投票する。
2. 今回の研修に参加したことで得た知識を現場に還元する。

3. 看護必要度を取りこぼさないようにする。

【7G】

1. 診療報酬改定後の対策工夫

- ・看護必要度の研修を受けて加算が取れるようにする。
- ・多職種カンファレンスを開催し記録に残している。
- ・認知症ケア加算をとっている(記録をきちんと残す、同意書をとる)
- ・退院後訪問(自宅に看護師、保健師など)
- ・終末期患者が退院した後、認定看護師が自宅訪問する。
- ・抗生剤適性検査の評価(感染症患者へのラウンド、リンクNs、Drなど)

2. 看護連盟会員を増やす。

- ・看護師全員入るようにする。そのために特典を作る。(テーマパークなどの割引券など)
- ・会費を安くする。

3. 国会に看護師の代表の議員を当選させる。

- ・全員、選挙に行くようにする。

【8G】

1. 取れる加算は確実に取れるよう業務を行っていく。

2. 看護必要度について

- ・しっかりと看護していることを知ってもらう。
- ・やるべきことをやり、加算も確実に取れるようにしていく。

【9G】

1. 選挙に行く。

2. 看護連盟会員を継続する。

3. 研修で学んだことを、他連盟会員と共有する。

4. 政治界に看護職の必要性を伝える。

5. 経費削減、加算についてできること

- ・単価を知る、周知する。
- ・加算の仕組みを知る。
- ・医師や事務職など多職種の協力を得る。

【10G】

1. 診療報酬について

- ・退院支援加算を1週間以内にリーダーが確認している。
- ・地域連携室で入院時加算をとっている。

2. 看護連盟会員としてできること。

- ・選挙に行く。
- ・現場の声を伝える。

3. 困っていること

- ・看護必要度の見直しは何回も必要である。
- ・看護必要度を上げるために、モニターや酸素を継続していることがある。
- ・看護必要度の知識にばらつきがある。
- ・看護必要度について、毎日30分カンファレンスをして入力している。

【11G】

1. 診療報酬改定の仕組み。

- ・診療報酬改定には、看護師の代表が必要である。
- ・看護職の国会議員を看護職全員で選ぶ。
- ・一人一人が確実に選挙に行く。

【12G】

1. 社会の動向を知る。

- ・選挙に行く。

2. 看護必要度について

- ・選挙に行く。勉強会をしたり努力しているがつけ忘れがあったりし必要度が低くなってしまう。
- ・記録が多すぎて時間外も多くなる。
- ・ベットサイドに行く時間が少ない。誰のための記録かわからない、ジレンマである。
- ・パソコンのシステムがよく取り忘れがない。

【13G】

1. 看護必要度の抜けや間違いをなくす。
2. コスト漏れをなくす。
3. 質の高い看護を提供するためにも、看護師の労働条件改善のために選挙に行く。

【14G】

1. 看護必要度を確実にとる。
 - ・勉強会をする。
2. 取れる加算はとる。
 - ・加算をとる必要性について理解する。
 - ・理解していないスタッフもいるため勉強会や、病棟会などで周知する。
3. 多職種連携
 - ・ケアマネジャーと連携を図る
 - ・リハビリとの連携を図る。
 - ・リハビリを強化している。
4. 選挙行く必要性を周知する。

【15G】

1. 看護必要度のチェック漏れをなくす。
 - ・勉強会を行う
2. スタッフがやらされ感が強いと、取り組みができない。
 - ・今回の研修の伝達をする。
 - ・自施設の収入、支出の現状を知る。
 - ・収益を上げるための取り組み。
 - ・選挙に積極的に行く。

【16G】

1. 各種加算について学び周知する。
2. 看護必要度のみの評価では、必要な人員確保は難しい。